

目次

生涯学習概論 (30-10 500)	1
図書館概論 (30-10 501)	2
図書館情報技術論 (30-10 502)	3
図書館制度・経営論 (30-10 503)	4
図書館サービス概論 (30-10 504)	5
情報サービス論 (30-10 505)	6
児童サービス論 (30-10 506)	7
情報サービス演習Ⅰ (30-10 507)	8
情報サービス演習Ⅱ (30-10 508)	9
図書館情報資源概論 (30-10 509)	10
情報資源組織論 (30-10 510)	11
情報資源組織演習Ⅰ (30-10 511)	12
情報資源組織演習Ⅱ (30-10 512)	13
図書館基礎特論(前半) (30-20 513)	14
図書館サービス特論(後半) (30-20 514)	15
図書館情報資源特論(後半) (30-20 515)	16
図書・図書館史(前半) (30-20 516)	17
図書館施設論(前半) (30-20 517)	18
図書館実習 (30-20 518)	19

生涯学習概論 (30-10 500)

非常勤講師: 渡辺 暢恵				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	2 単位	後期	講義

授業概要	<p>現代社会の基本的な特徴は、継続的な学習の必要性にある。</p> <p>社会生活の中での継続的な学習を実現するには、家庭、学校、社会という伝統的な教育の領域を統合して、生涯学習の視点から諸制度を再検討することが必要であり、生涯学習の方法の中核は、従来の社会教育である。</p> <p>そこで、本講は、生涯学習の理念と背景を主とし、図書館、公民館、博物館など社会教育の施設、司書、学芸員など専門職、学習プログラムなど社会教育の計画や評価に加え、法制や行政、今日の生涯学習論につながる社会教育の歴史と今後を解説する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置付けられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>
到達目標	<p>①生涯学習の歴史や意義、また理念を理解する。</p> <p>②各年代にあわせた生涯学習の取り組み内容を理解する。</p> <p>③生涯学習の形態や方法を知る。</p>
授業内容と計画	<p>第1回 講義の進め方 生涯学習とは何か</p> <p>第2回 1章 生涯学習社会の創造 調査場所の分担</p> <p>第3回 調査・研究の時間 (PC 室)</p> <p>第4回 発表の準備 (PC 室)</p> <p>第5回 2章 生涯学習振興行政の変遷①</p> <p>第6回 2章 生涯学習振興行政の変遷②</p> <p>第7回 3章 生涯学習振興行政と社会教育行政</p> <p>第8回 4章 生涯学習の課題・学習者①</p> <p>第9回 4章 生涯学習の課題・学習者②</p> <p>第10回 5章 生涯学習の方法・生涯学習の支援方法</p> <p>第11回 6章 生涯学習社会と学校・地域・家庭</p> <p>第12回 7章 生涯学習支援における図書館の役割①</p> <p>第13回 7章 生涯学習支援における図書館の役割②</p> <p>第14回 8章 生涯学習支援における博物館の役割</p> <p>第15回 9章 生涯学習支援における青少年施設の役割</p>
履修者への要望・条件	<p>・第1回の授業に出席の際、指定しているテキストを持参してください。分担して調べるところを決めます。</p> <p>・千葉経済大学 地域経済博物館の企画展を見学する課題に取り組んでもらいます</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>[予習] 毎回授業の時に次回の予告をします。それに基づいて、教科書の指定されたページを熟読し、授業に備えてください。わからない用語は事前に調べておきましょう。</p> <p>[復習] 授業で配布した資料や自分でつくったノートを読み返すとともに、身近にある生涯学習施設を意識的に見て、理解度を高めてください。さらに詳しいことを知るために、関連するインターネットの情報を調べて学びましょう。予習・復習時間を各120分必要です。</p>
教科書	鈴木真理・馬場祐次朗・葉袋秀樹著『生涯学習概論』(樹村房、2014年)
参考書	特になし
評価方法と基準	<p>平常点 (50%) 授業への姿勢、発表、提出物 * 地域経済博物館見学記録提出は必ず</p> <p>試験 (50%) 生涯学習の基礎的な知識、見解を持てたか 教科書、ノート、配付物持ち込み可</p> <p>提出物については、コメントをつけて返却し、参考になるコメントについては、匿名で全員に紹介して授業の内容理解に活用する。</p>

図書館概論 (30-10 501)

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	2 単位	前期	講義
授業概要	<p>当科目では、主に公共図書館の歴史や仕組み、運営方法などを軸に、図書館全般についての理解を深めていきます。公共図書館の理念を確認し、課題を検証することを通じて、実際の改善点についても考えていきます。公共図書館の本来のあり方と、変化する社会環境への適応について、現場ではどのような整合を図っているのか、理想と現実の双方に配慮しつつ進めます。</p> <p>講義形式での進行を基本としますが、必要に応じて視聴覚教材等を利用したりすることもあります。国内外の図書館が WEB 上にアップしている動画等も適宜紹介します。</p> <p>毎回の授業で、配布資料等に関する出題についての意見・回答や、質問等の記入・提出を求めます（リアクションペーパー）。</p> <p>なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。（学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。）</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 公共図書館の理念や役割を理解する。 ② 公共図書館の歴史や現状を知る。 ③ 公共図書館の制度や運営方法を知ると同時に、その問題点を理解する。 ④ 新しい図書館のあり方を理解する。 			
授業内容と計画	<p>第1回 ガイダンス：皆さんが図書館について知っていること</p> <p>第2回 図書館とは何か</p> <p>第3回 図書館の種類</p> <p>第4回 図書館の機能・役割・意義</p> <p>第5回 学問の自由・知的自由と図書館</p> <p>第6回 図書館の自由宣言・図書館員の倫理綱領</p> <p>第7回 図書館の歴史：公共図書館成立前史</p> <p>第8回 近代市民社会と公共図書館の成立</p> <p>第9回 読書と図書館</p> <p>第10回 図書館関連法令の概要</p> <p>第11回 図書館職員の役割と資格</p> <p>第12回 図書館の経営と現場の実務</p> <p>第13回 図書館による情報発信</p> <p>第14回 日本の図書館の現状と将来</p> <p>第15回 まとめ：図書館で働く職員が知っていること</p>			
履修者への要望・条件	特になし			
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>[予習] 毎回授業の時に次回の予告をします。それに基づいて指定した資料の熟読や課題の整理によって1週間のうち120分以上の予習を行い、授業に備えてください。</p> <p>[復習] 授業で渡すレジュメや授業でつくったノートを読み返すことを含め、1週間のうち120分以上の復習を行い、授業の内容を再度イメージし理解を深めてください。疑問点はそのままにせず、教員に質問する、文献を調べるなどしてください。</p>			
教科書	大串夏身・常世田良著『図書館概論 第4版』（学文社、2022年）			
参考書	猪谷千香著『つながる図書館』（筑摩書房、2014年）			
評価方法と基準	レポート（70%）、授業への取組み（30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①30%②20%③30%④20%とします。なお、レポートについては、全体的な傾向やポイント、注意点等を授業内で論評します。			

図書館情報技術論 (30-10 502)

非常勤講師:堀越 洋一郎				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	2 単位	前期	講義

授業概要	<p>デジタルメディア、特にインターネットを中心としたネットワーク上の情報を中心に、コンピュータ等の基礎知識、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子書籍、等について解説する。それにより、図書館業務に必要な情報技術の最新の状況を理解し基礎を習得する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく)。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な情報環境を理解し、図書館業務に関する情報技術を習得する。 2. 情報の特性を理解することにより、変化する情報環境に慣れ、情報技術を使いこなせるようにする。
授業内容と計画	<p>第1回 図書館における情報技術</p> <p>第2回 デジタル化、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの関係、ネットワークの基礎知識</p> <p>第3回 デジタル化の基礎—データの表し方、主に2進数と16進数、文字データの表し方</p> <p>第4回 文字データの表し方の続き、MARC(機械可読目録)</p> <p>第5回 MARC(機械可読目録)、OPAC(オンライン利用者目録)の実例と書店在庫検索</p> <p>第6回 “検索”とは</p> <p>第7回 データベースの検索:論理演算、トランケーション</p> <p>第8回 キーワードの関係性:シソーラス</p> <p>第9回 画像・動画・音声の記録方法(標本化、量子化など)</p> <p>第10回 データベースの基礎</p> <p>第11回 横断検索とMLA(ミュージアム・ライブラリー・アーカイブ)連携</p> <p>第12回 オンラインデータベースの発展の経緯とweb</p> <p>第13回 色のデジタル化、印刷と色</p> <p>第14回 デジタル化と図書館活動:デジタルアーカイブ、電子書籍・電子雑誌の利用</p> <p>第15回 まとめ—情報環境の進展に伴う利用者と図書館側のありかたについて</p>
履修者への要望・条件	<p>授業内に課題を出す場合があるので、指定期日に提出すること。</p> <p>学習内容は、「情報サービス演習II」の基礎的知識となるので、そのことも意識して学習すること。</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>予習は必要ないが、授業で学習した内容を配付プリントの内容と併せて240分の復習時間を取り、学習した内容に疑問点があれば、授業内または次回授業で質問すること。</p> <p>各自で複数の公共図書館や専門図書館に行き、利用者への情報提供の実例を体験すること。</p>
教科書	<p>特に指定なし。</p> <p>授業内容や参考文献のプリントを毎回配布する。</p>
参考書	<p>田中均著『図書館情報技術論[改訂版]』(青弓社、2024)</p> <p>山本順一 監修『図書館情報技術論[第2版]:図書館を駆動する情報装置(講座・図書館情報学4)』(ミネルヴァ書房、2022)</p> <p>授業内で紹介した資料(含むwebサイト)の内、各自にあったものを積極的に読むこと。</p>
評価方法と基準	<p>テスト(80%)、授業内課題(10%)、授業への取り組みの能動性(10%)を考慮して評価する。</p> <p>授業内課題については、提出の次の授業にて全体解説等を行い、必要があれば個別に添削を行い返却する。</p>

図書館制度・経営論 (30-10 503)

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	2 単位	前期	講義

授業概要	<p>本講は、社会における図書館という仕組みの成り立ちと、その運営方法について理解することを目的とします。前半が図書館制度、後半が図書館経営についての解説です。前半では、関連法令・例規類を中心とした図書館の制度的基盤について取り上げ、歴史的な背景にも留意しつつ、図書館法の説明に重点をおきます。後半では、知識や情報、文化と関わりの深い非営利組織である図書館の振興や活動が、どのように展開されているかを実例を取り上げつつ解説します。制度・経営についての基礎的知識を応用して、現代の図書館が直面する課題の把握に結び付けます。日本の公共図書館に関する内容を中心ですが適宜海外の事例も紹介します。</p> <p>講義形式での進行を基本としますが、必要に応じて視聴覚教材等を利用したりすることもあります。</p> <p>毎回の授業で、配布資料等に関する出題についての意見・回答や、質問等の記入・提出を求めます（リアクション・ペーパー）。</p> <p>なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。（学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。）</p>
到達目標	<p>① 図書館の制度的背景や基盤やについて説明できる。</p> <p>② 図書館法令の意義や概要を説明できる。</p> <p>③ 図書館経営・政策の現状について基本的な事項を説明できる。</p>
授業内容と計画	<p>第1回 ガイダンス：個人がそれぞれに持っている図書館イメージ</p> <p>第2回 図書館の制度的歴史と図書館法</p> <p>第3回 図書館法とその条文構成</p> <p>第4回 図書館と関連法規</p> <p>第5回 図書館と著作権</p> <p>第6回 新しい図書館のあり方の模索</p> <p>第7回 文化・知識・情報と図書館（制度論のまとめ）</p> <p>第8回 図書館経営論概観</p> <p>第9回 図書館経営の構成要素（職員・施設・予算）と運営形態</p> <p>第10回 図書館経営の運営形態：指定管理者制度を中心に</p> <p>第11回 図書館の組織・活動の実際</p> <p>第12回 図書館政策とまちづくり</p> <p>第13回 図書館における計画とその実施</p> <p>第14回 利用者のニーズ把握と図書館サービスの評価・改善</p> <p>第15回 図書館制度・経営の今日的課題（全体のまとめ）</p>
履修者への要望・条件	特になし
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>毎回授業の時に次回の予告をします。教科書の該当部分を120分以上、熟読し、授業内容について、おおよそのイメージを持って、授業に臨んでください。教科書の該当箇所を熟読して、授業内容について、おおよそのイメージを持って、授業に臨んでください。授業で渡すレジュメや自分でつくったノートを120分程度、読み返して、理解度を高めてください。疑問点はそのままにせず、教員に質問する、文献を調べるなどしてください。</p>
教科書	柳与志夫『図書館制度・経営論 第3版』（学文社、2024年）
参考書	国内外の図書館の取り組みの様子をWEBページや動画などで随時紹介します。レジュメのほか、講義の内容に関する法令類の条文等の資料を随時配布します。
評価方法と基準	<p>レポート（70%）、授業態度（授業への積極的な参加）（30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①60%②25%③15%とします。なお、レポートについては、全体的な傾向やポイント、注意点等を授業内で論評します。</p>

図書館サービス概論 (30-10 504)

名誉教授: 齊藤 誠一				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	2 単位	前期	講義

授業概要	<p>図書館サービスは、図書館の基本的機能である情報資源へのアクセスを保障し、利用者のあらゆる資料要求及び情報要求を充足するための諸活動と捉えることができます。この科目では、公共図書館が行っているサービスを理論的に説明すると同時に、サービスを展開する上での知識や技術を具体的な事例を交えて解説していきます。また講義を中心に行ないませんが、質問形式のやり取りを多用し、各自が考え、意見を出し合う場も設けます。なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>
到達目標	<p>① 公共図書館が行なっているさまざまなサービスの内容を理解する。 ② 公共図書館が住民のさまざまな問題を解決するための情報基盤施設であり、かつ民主主義を守るための大切な仕組みであることを理解する。 ③ 運営方法の変化や I C T 化の進展などの状況変化を正確に理解し、利用者の自己実現を支援するためにさまざまなサービスを展開し得る司書としての知識・技術を習得する。</p>
授業内容と計画	<p>第 1 回 図書館サービスの意義 第 2 回 図書館のサービス計画 第 3 回 図書館サービスの担い手 第 4 回 利用空間のデザイン 第 5 回 来館者へのサービス 第 6 回 貸出サービス 第 7 回 資料提供サービスの展開 第 8 回 情報提供サービス 第 9 回 電子図書館サービス 第 10 回 図書館サービスをとらえる視点 第 11 回 多様な利用者サービス 第 12 回 利用者の特性に配慮したサービス 第 13 回 図書館サービスの評価 第 14 回 地域に根ざした図書館サービス 第 15 回 図書館サービスをめぐる課題</p>
履修者への要望・条件	特になし
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>[予習] 毎回授業の時に次回の予告をします。それに基づいて指定した資料を熟読し、課題の整理によって 1 週間のうち 120 分以上の予習を行い、授業に備えてください。</p> <p>[復習] 授業で渡すレジュメや自分でつくったノートを読み返すことを含め、1 週間のうち 120 分以上の復習を行い、授業の内容を再度イメージし理解を深めてください。</p>
教科書	小田光宏著『図書館サービス概論』(日本図書館協会、2023 年)
参考書	授業時に紹介します。
評価方法と基準	筆記試験 (70%)、レポート (20%)、授業への取り組みの能動性 (10%) をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①30%②50%③20%とします。なお、レポートについては、採点し返却するので、振る返りに利用してください。

情報サービス論 (30-10 505)

名誉教授: 齊藤 誠一				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	2 単位	前期	講義
授業概要	<p>情報サービスとは、情報を求めている図書館の利用者に対して、図書館員が提供する人的援助であり、具体的には、利用者から寄せられる様々な質問や相談に対して回答したり、情報や情報源の提供・紹介等をしたりますことです。本講では、図書館における情報サービスの意義、歴史、種類を明らかにし、このサービスの基本であるレファレンスサービスの方法やプロセス等について解説します。また、インターネット上の情報源や、各種のデータベースなどを活用した情報検索サービス、図書館利用教育、発信型情報サービス等についても解説し、かつ利用者とのコミュニケーション手段であるレファレンスインタビューの方法についても触れます。なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 情報サービスの意義、歴史、種類を理解する。 ② 公共図書館における人的援助とは何かを理解する。 ③ レファレンスサービスに活用できる情報源を知る。 ④ 利用者とのコミュニケーション方法を習得する。 			
授業内容と計画	<p>第1回 情報社会と図書館の情報サービス 第2回 情報サービスの意義と種類 第3回 レファレンスサービスの理論 第4回 レファレンスサービスの実際 第5回 レファレンスインタビューの方法 第6回 情報検索サービスの理論と方法 第7回 各種情報源の特質と利用法Ⅰ 第8回 各種情報源の特質と利用法Ⅱ 第9回 各種情報源の解説と評価 第10回 レファレンスブック活用の実際 第11回 外部データベースの評価と活用 第12回 インターネット情報源の評価と活用 第13回 各種情報源の組織化 第14回 発信型サービスの意義と方法 第15回 図書館利用教育</p> <p>主に講義形式で行いますが、ビデオ教材も併用し、適宜、図書館を利用したり、発表を交えたりします。</p>			
履修者への要望・条件	特になし			
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>[予習] 毎回授業の時に次回の予告をします。それに基づいて指定した資料の熟読や課題の整理によって1週間のうち120分以上の予習を行い、授業に備えてください。</p> <p>[復習] 授業で渡すレジюмеや授業でつくったノートを読み返すことを含め、1週間のうち120分以上の復習を行い、授業の内容を再度イメージし理解を深めてください。</p>			
教科書	指定なし。毎回授業用プリントを配布します。			
参考書	斎藤文男、藤村せつ子共著『実践型レファレンス・サービス入門 補訂2版(JLA 図書館実践シリーズ 1)』(日本図書館協会、2019年)			
評価方法と基準	筆記試験(70%)、レポート(20%)、授業への取組みの能動性(10%)をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①20%②30%③30%④20%とします。レポートについては、コメントを付けて返却するので、振り返りに利用してください。			

児童サービス論 (30-10 506)

非常勤講師: 渡辺 暢恵				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	2 単位	前期	講義

授業概要	<p>児童青少年期における読書の重要性についての認識を深める。 そのうえで、児童の読書する能力を育てることを目的に、公共図書館サービスの基礎となる幼児から児童青少年に対するサービス活動について解説する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>
到達目標	<p>18歳までの乳幼児から青年が、読書を楽しみ、読書を人間形成の基盤として成長するよう援助するのが児童図書館サービスであることを理解し、読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどの実技を習得する。</p>
授業内容と計画	<p>第1回 児童サービスとは ・公共図書館児童サービスと自分 ・レポート課題 児童室の見学 絵本, 本を借りる準備 ・自分の心に残っている本を見つけておく</p> <p>第2回 子どもの発達と読書 ・自分の読書遍歴をふりかえり影響を受けた本を書く</p> <p>第3回 読書に関する国の施策 子ども読書活動推進計画 ・自分の市の調査</p> <p>第4回 公共図書館の児童サービス ・レポートをもとにデイズカッション</p> <p>第5回 絵本の種類・絵本の読み聞かせ ・絵本を借りて練習をしておく。実技演習</p> <p>第6回 児童書の種類 ・自分の心に残っている本を1冊持ってくる</p> <p>第7回 ブックトークとは何か、テーマの決め方と実際 ・テーマを考えて本を3冊持ってくる</p> <p>第8回 ブックトークの発表 ・グループで実技演習</p> <p>第9回 ストーリーテリング お話会の作り方 ・グループ内で発表する</p> <p>第10回 乳幼児サービス ・ブックスタート事業 自分の市の調査</p> <p>第11回 学校図書館との連携 ・学校図書館についてまた、公共図書館との連携についての理解</p> <p>第12回 ヤングアダルトサービス ・YAサービスの在り方 グループワーク</p> <p>第13回 特別な支援を要する児童へのサービス</p> <p>第14回 地域と連携する児童サービスの在り方 ・児童サービス担当者として</p> <p>第15回 ビブリオバトル</p>
履修者への要望・条件	<p>・課題をしないと授業に参加できませんので、よく準備してください。</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>第1回に、シラバスの説明と課題を伝えます。 ディスカッション、レポートの準備</p> <p>[予習] 授業の最後に次回の予告と課題を出しますので取り組んでください。 [復習] 授業で配布した資料や自分でつくったノートを読み返し、大学図書館や公共図書館所蔵の絵本、児童書を積極的に読み、児童サービスの理解を深めてください。 予習・復習時間 各120分必要です 毎回、次の回の資料を配付するので、必ず読んで授業に臨みましょう</p>
教科書	<p>指定なし 資料を配付します</p>
参考書	<p>赤星隆子・荒井督子編著『児童図書館サービス論』(理想社、2009年) 渡辺暢恵著『実践できる司書教諭を養成するための学校図書館入門』(ミネルヴァ書房、2009年)</p>
評価方法と基準	<p>・平常点 (50%) 授業への姿勢、提出物 * 公共図書館児童室見学記録提出は必修 ・期末テスト (50%) 必要な知識が身についているか . . . 配付資料とノート持ち込み可</p> <p>提出物については、コメントをつけて返却し、 参考になるコメントは、匿名で全員に紹介して授業の内容理解に活用する。</p>

情報サービス演習 I (30-10 507)

名誉教授: 齊藤 誠一				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	1 単位	後期	演習
授業概要	<p>前期の情報サービス論の講義を踏まえ、情報サービスの計画から評価、業務の中心となるレファレンス・サービスの実務について演習形式ですすめ、その方法及び技術の体得をめざします。具体的には、参考図書やその他の情報源の評価、それを利用したレファレンス質問への回答手法、またレファレンス記録の効率的で必要十分な書き方を習得します。特に同じ事例を数人で行い、それを比較検討することでレファレンス・サービスの調査に対する知識・技術の自己評価を行います。また、レファレンス・サービスを行うには、できるだけ多くの具体的なレファレンス事例に接することが重要であり、それによってこの業務の理解を深めることができます。したがって、毎回図書館に行き、事例課題を与え、その場で回答する即戦力演習や、インターネット上の情報源の活用演習も行ないます。なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分で情報探索ができるようになり、調べることが楽しくなるようにする。 ② 実際の情報探索をとおして、そのためのツールと方法を知る。 ③ 基本参考図書の評価とともにインターネット上の情報の評価方法を知り、有効サイトを理解する。 ④ レファレンス記録の効率的で必要十分な書き方を習得する。 			
授業内容と計画	<p>第1回 情報サービスの計画 第2回 レファレンスコレクションの整備 第3回 レファレンス記録の書き方と評価方法 第4回 レファレンス演習課題の調査方法と評価 第5回 基本資料を使った即戦力演習Ⅰ (ことば・成句の情報) 第6回 基本資料を使った即戦力演習Ⅱ (事柄・事物・現象の情報) 第7回 基本資料を使った即戦力演習Ⅲ (人物・団体の情報) 第8回 基本資料を使った即戦力演習Ⅳ (地名・地理の情報) 第9回 基本資料を使った即戦力演習Ⅴ (歴史・時事・統計の情報) 第10回 基本資料を使った即戦力演習Ⅵ (統計の情報) 第11回 基本資料を使った即戦力演習Ⅶ (図書・雑誌・新聞の情報) 第12回 インターネット情報源の活用演習 第13回 情報源のハイブリッドな活用の事例 第14回 発信型情報サービスの実際 第15回 情報サービスの評価と事例データベースの作成と活用法</p> <p>教室では演習に対する回答添削を行い、その後、総合図書館で実際に参考図書を利用して即戦力演習を行います。</p>			
履修者への要望・条件	「情報サービス論」が履修済であること。			
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>[予習] 毎回、演習課題を宿題として出します。図書館の情報源を使って30分以上調査し、レファレンス回答記録を書いて提出してください。</p> <p>[復習] 提出された演習課題の回答を添削して返却します。それを30分以上自分でチェックし直し、基本参考資料の把握と情報探索の手法の理解を深めてください。</p>			
教科書	指定なし。毎回授業用プリントを配布します。			
参考書	斎藤文男・藤村せつ子著『実践型レファレンス・サービス入門 補訂2版』(日本図書館協会、2019)			
評価方法と基準	演習課題の回答評価(30%)、図書館における即戦力演習の回答評価(30%)、筆記試験(30%)、授業への取組みの能動性(10%)をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①30%②20%③10%④40%とします。なお、宿題については添削し、コメントを付けて返却するので振り返りに利用してください。			

情報サービス演習Ⅱ (30-10 508)

非常勤講師:堀越 洋一郎				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	1単位	後期	演習

授業概要	<p>コンピュータを使った情報検索は、パッケージ型のオフライン（CD-ROM や DVD-ROM など）や動的に変化するオンライン（特にインターネットを利用するデータベースの検索や web サイトの情報）共に、日常的な情報入手手段となっている。図書館員にとっても利用者のニーズにあった情報源を案内（ナビゲート）する、検索方法を利用者に説明するなどの役割が求められる。本科目では情報検索理論と検索戦略のたて方を学び、実際に検索演習を行うことによって情報サービスの一端の理解を目的とする。</p> <p>授業内では、実際に検索を通して質問に回答し、その過程を含め文書を作成することによって、利用者を想定した他者への情報提供の要件を理解する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている（学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく）。</p>
到達目標	情報検索を行う際の検索対象、検索式の設定、検索内容の理解、検索依頼者との対応を身につける。
授業内容と計画	<p>* コンピュータ室で一人1台のPCを使用する</p> <p>第1回 情報検索の技法と実際、検索エンジンの使用とそれを使用した課題 第2回 第1回課題の回答と解説、データベース、検索エンジン、SNS一特にタグによる検索 第3回 各種図書館のOPAC（オンライン利用者目録） 第4回 OPACを使った演習課題 第5回 第4回演習課題の回答と解説、検索エンジンを使った演習課題 第6回 インターネット検索：OPACと図書検索。横断検索（カーリルなど） 第7回 インターネット検索：日経テレコンでの商用データベースの検索演習 第8回 『Webで学ぶ情報検索の演習と解説』サインアップ（新規登録） 第9回 『Webで学ぶ情報検索の演習と解説』：人物略歴情報 第10回 『Webで学ぶ情報検索の演習と解説』：雑誌記事情報 第11回 『Webで学ぶ情報検索の演習と解説』：図書内容情報 第12回 『Webで学ぶ情報検索の演習と解説』：新聞記事原報 第13回 受講生による課題問題の作成と演習 第14回 受講生による課題問題の回答の相互閲覧、考察 第15回 総合課題</p>
履修者への要望・条件	<p>「図書館情報技術論」の単位を取得していることが望ましい</p> <p>検索課題についてはWordで課題結果を記すだけでなく、使用データベース名や、検索式など検索の経緯が分かるような書類にすること。</p> <p>指示があった際には作成した文書を提出すること。</p> <p>教科書は演習で必要なので必ず購入すること。</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>前回の授業の復習時間を30分以上取り、次の授業にあたること。</p> <p>また、次回授業内容の説明を受けて、内容の予習を30分以上行うこと。</p> <p>授業内での文書作成が終わらない場合は、次の授業までに自ら追加検索をして仕上げ提出すること。</p>
教科書	野口武悟、千錫烈 編著『Webで学ぶ情報検索の演習と解説』（日外アソシエーツ、2023年）
参考書	小田光宏 編著『情報サービス論 JLA 図書館情報学テキストシリーズ III 5』（日本図書館協会、2012）
評価方法と基準	<p>テスト（80%）、演習文書記載状況（10%）、授業への取組みの能動性（10%）を考慮して評価する。</p> <p>授業内の課題については、個別又はまとめて添削して授業内で解説し返却する。</p>

図書館情報資源概論 (30-10 509)

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	2 単位	後期	講義

授業概要	<p>図書館では、印刷資料に加え、非印刷資料や電子資料、ネットワーク情報資源など、情報や知識を得るための媒体やルートを整備しています。これら図書館情報資源にはどのような歴史的背景や特徴があるのかを確認していきます。加えて、国内で年間7万点を超えて出版される図書の中から、各図書館は何をどのように選んでいるのか、どのようなネットワーク情報資源へのアクセスを優先するのか、その前提として、何を目標として情報資源を整備するのかを学びます。</p> <p>講義形式での進行を基本としますが、必要に応じて視聴覚教材等を利用したりすることもあります。</p> <p>毎回の授業で、配布資料等に関する出題についての意見・回答や、質問等の記入・提出を求めます（リアクションペーパー）。</p> <p>なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。（学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。）</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 図書館で整備する資料や情報源の種類や特徴を理解する。 ② 図書館情報資源の歴史・選択・収集・管理などについて理解する。 ③ 公共図書館での資料選択・蔵書構成の実際を知る。
授業内容と計画	<p>第1回 ガイダンス：図書館情報資源とは</p> <p>第2回 記録メディアとネットワーク情報源</p> <p>第3回 図書館で活用する情報源概念の拡大と再確認</p> <p>第4回 伝統的な(旧来の)図書館資料の特徴</p> <p>第5回 ネットワーク情報源の特徴（コレクションからコネクションへ）</p> <p>第6回 資料選択と蔵書構築</p> <p>第7回 図書館資料収集方針の実際</p> <p>第8回 資料収集のプロセス</p> <p>第9回 資料の蓄積・保存のプロセス</p> <p>第10回 コレクションの評価と再編</p> <p>第11回 ネットワーク情報源・電子書籍の実際</p> <p>第12回 図書館情報資源と「図書館の自由」</p> <p>第13回 出版流通の仕組みと特徴</p> <p>第14回 出版流通と図書館</p> <p>第15回 まとめ：何のための図書館情報資源か</p>
履修者への要望・条件	特になし
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>[予習]</p> <p>毎回授業の時に次回の予告をします。教科書の該当部分を120分以上、熟読し、授業内容について、おおよそのイメージを持って、授業に臨んでください。</p> <p>[復習]</p> <p>授業で渡すレジュメや教科書、自分でつくったノートを120分程度、読み返して、図書館の現場でどのように活用できるか、イメージして、理解度を高めてください。疑問点はそのままにせず、教員に質問する、文献を調べるなどしてください。</p>
教科書	岸田和明編著『図書館情報資源概論』（樹村房、2020年）
参考書	関連文献については、授業時に随時紹介・配布します。
評価方法と基準	レポート（70%）、授業態度（授業への積極的な参加）（30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①70%②25%③5%とします。なお、レポートについては、全体的な傾向やポイント、注意点等を授業内で論評します。

情報資源組織論 (30-10 510)

非常勤講師:堀越 洋一郎				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	2単位	前期	講義

授業概要	<p>現代社会における情報格差は情報環境整備とともに、有効な情報検索技術を持っているか否かに左右されるといえる。</p> <p>また、図書館、メディアセンター等で利用できる様々な情報資源を活用できるかどうかは、資料（コンテンツ）をどう組織化するにかかっている。</p> <p>この授業では情報資源組織化の基本方針や技術について学習する。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源などデジタルコンテンツから構成される図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、典拠コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を理解できるようにする。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく)。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館等での情報資源組織化の役割とそれをささえる環境を理解する。 2. 情報資源整理の技術と検索システムを理解する。 3. 後期開講の情報資源組織演習に必要な基礎的な知識を身につける。
授業内容と計画	<p>第1回 情報資源とは何か、組織化とは何か</p> <p>第2回 情報資源組織業務の種類、位置付け</p> <p>第3回 書誌コントロールについて</p> <p>第4回 情報資源選択に資するツール・情報源</p> <p>第5回 書誌ユーティリティの機能、MARC（機械可読目録）</p> <p>第6回 目録法、目録規則</p> <p>第7回 OPAC（オンライン所蔵目録）</p> <p>第8回 OPACの形成と利用</p> <p>第9回 記述目録法の概要</p> <p>第10回 記述目録法の基礎：記述の範囲</p> <p>第11回 目録作成の実際：書誌階層の考え方</p> <p>第12回 主題分析の意義と考え方</p> <p>第13回 主題目録法：NDC（日本十進分類法）、BSH（基本件名標目表）の概要</p> <p>第14回 地域資料・行政資料の組織化、図書館記号と著者記号</p> <p>第15回 まとめ—情報資源の拡大に伴う図書館サービスの変化について</p> <p>理解度を確認するために授業内で小テストを行う場合や、公共図書館での書架配列について調べるなど調査を求める場合がある。</p>
履修者への要望・条件	<p>日頃から大学の総合図書館や住まいの近隣の図書館などを利用し、講義内容と現場の状況を比較し、問題意識を持って授業に出るようにすること。</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>授業で学習した内容を配布プリントの内容と併せて毎日40分以上復習し、学習した内容に疑問点があれば、授業内または次回授業で質問すること。</p> <p>疑問点があれば、積極的に質問をすること。</p>
教科書	<p>柴田正美 著『情報資源組織論 三訂版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ9)』(日本図書館協会、2020年)</p>
参考書	<p>田窪直規 著『三訂情報資源組織論 現代図書館情報学シリーズ 9』(樹村房、2020年)</p>
評価方法と基準	<p>テスト(80%)、授業内課題(10%)、授業への取り組みの能動性(10%)を考慮して評価する。</p> <p>授業内課題については、提出の次の授業にて全体解説等を行い、必要があれば個別に添削を行い返却する。</p>

情報資源組織演習 I (30-10 511)

名誉教授: 齊藤 誠一				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	1 単位	後期	演習

授業概要	<p>『情報資源組織論』で学んだ知識及び『日本目録規則 2018 年版』をもとに目録・書誌データの作成の実際について演習します。ここではコンピュータ目録を前提に、数多くの演習用情報源を対象として実習用データ入力票を毎回 3~4 題作成してもらいます。それによって一連の目録・書誌データ作成作業を学習します。なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>
到達目標	<p>① 図書館の情報資源に関する書誌データの作成について演習をとおして学び、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。</p> <p>② 既成の市販目録・書誌データ (MARC) を購入する場合でも納入物の検収は不可欠であり、そのための知識や技術を身につける。</p> <p>③ 市販目録である書誌データ (MARC) にはない資料については、独自に入力 (作成) する必要があり、入力のために必要な能力を養うことを目標とする。</p>
授業内容と計画	<p>第 1 回 情報資源組織演習の進め方 第 2 回 書誌データ作成の実際と目録法 第 3 回 『日本目録規則 2018 年版』の解説、概念モデル FRBR の説明 第 4 回 体现形の記録 I (タイトルの記述)・目録記録演習 第 5 回 体现形の記録 II (責任表示の記述)・目録記録演習 第 6 回 体现形の記録 III (版、出版表示等の記述) 第 7 回 体现形の記録 IV (シリーズ、キャリアに関する記述)・目録記録演習 第 8 回 体现形の記録 V (識別子、入手条件、注記等の記述)・目録記録演習 第 9 回 各種の記述様式・目録記録演習 第 10 回 アクセス・ポイントの構築・目録記録演習 第 11 回 演習の実施 (タイトルと責任表示の記述を中心に実施) 第 12 回 演習の実施 (版、出版表示の記述を中心に実施) 第 13 回 演習の実施 (シリーズ、識別子、注記等の記述を中心に実施) 第 14 回 演習の実施 (全体的な目録記述に対する演習) 第 15 回 ネットワーク情報源のメタデータ、及び演習のまとめ</p> <p>※ 実習用データ入力票にいる目録作成実習を随時行います。</p>
履修者への要望・条件	『情報資源組織論』が履修済であること。
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>[予習] 毎回、演習課題を宿題として出します。自宅で 30 分以上「目録」の作成を行って、授業の時に提出してください。</p> <p>[復習] 授業では、随時、実習用データ入力票を配布し、目録を作成してもらいます。それを 30 分以上自宅で再度検証し、演習課題の理解に役立ててください。</p>
教科書	和中幹雄他著『情報資源組織演習 三訂版』(日本図書館協会、2023 年)
参考書	授業時に紹介します。
評価方法と基準	筆記試験 (70%)、演習発表内容・演習課題提出 (20%)、授業への取組みの能動性 (10%) をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について ①40%②20%③40%とします。なお、宿題については添削し、コメントを付けて返却するので振り返りに利用してください。

情報資源組織演習Ⅱ (30-10 512)

非常勤講師:堀越 洋一郎				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	1 単位	後期	演習

授業概要	<p>主に『日本十進分類法』(NDC)による分類付与作業の演習と件名付与について『基本件名標目表』(BSH)による件名付与についての解説を通じて、主題分析の考え方を理解する。多様な情報資源に関する主題分析、分類作業、統制語彙の適用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的に学ぶ。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく)。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主題分析の具体的な方法について、分類と件名を通して理解する。 2. 演習を通じて『日本十進分類法』(NDC)と『基本件名標目表』(BSH)のしくみと使い方について理解する。 3. 情報資源の配架とコンピュータを使った主題検索技術を理解する。
授業内容と計画	<p>第1回 主題分析の考え方と方法、分類と件名の役割</p> <p>第2回 主題分析とその表示</p> <p>第3回 主題分析法について</p> <p>第4回 日本十進分類法(NDC)の概要と使い方説明、一般補助表(形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分、言語共通区分、文学共通区分)の解説</p> <p>第5回 一般補助表(形式区分)、一般補助表の復習と演習</p> <p>第6回 第5回演習の回答と解説、分類付与演習</p> <p>第7回 第6回演習の回答と解説、分類付与演習</p> <p>第8回 第7回演習の回答と解説、分類付与演習</p> <p>第9回 第8回演習の回答と解説、分類付与演習</p> <p>第10回 分類付与小テスト</p> <p>第11回 第10回分類付与小テストの回答と解説、分類付与補充小テストとその回答と解説</p> <p>第12回 基本件名標目表(BSH)の概要、件名付与について</p> <p>第13回 図書記号のつけ方と配架、著者記号</p> <p>第14回 コンピュータ目録について1 OPAC(オンライン所蔵目録)、MARC(機械可読目録)</p> <p>第15回 総合演習(重点項目の復習と補足説明)</p> <p>演習問題の回答について解説を行いながら、件名・分類の手順、方法について説明を行う。</p>
履修者への要望・条件	「情報資源組織論」を受講していることが望ましい。
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>授業内での演習を効率的に行えるように教科書・プリント等で各回60分以上の時間を取り、予習・復習すること。</p> <p>提出した課題の解答をもとに疑問点があれば授業中などに質問し、正確に理解するようにすること。</p>
教科書	<p>和中幹雄、横谷弘美 共著『情報資源組織演習 三訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ10, 日本図書館協会、2023年)</p> <p>* 演習で使用する『日本十進分類法』(NDC)新訂10版は授業時各自に貸与する</p>
参考書	田窪直規 著『三訂情報資源組織演習 現代図書館情報学シリーズ 10』(樹村房、2021)
評価方法と基準	<p>テスト(80%)、課題回答内容(10%)、授業への取組みの能動性(10%)を考慮して評価する。</p> <p>授業内演習課題については、提出の次の授業にて回答集を配布し全体解説等を行い、必要があれば個別に説明、添削を行い返却する。</p>

図書館基礎特論（前半） (30-20 513)

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	1 単位	後期	講義

授業概要	<p>司書資格は、主として公共図書館の専門的職務に従事する職員になるためのものです。必修科目で学んだ内容をより深く理解するために、図書館の歴史から振り返り、基本的理念や制度とともに図書館サービスの具体的な手法等について、確認していきます。司書課程で学ぶ事柄について横断的・多面的に取り上げ、図書館職員になるために必要とされる知識・技術・マインドなどを体系的に身に付けることを目指します。同時に、生涯にわたって図書館を使いこなせるよう、図書館についての多面的な把握を、現場感を意識しつつ、受講者全員で試みます。</p> <p>講義形式での進行を基本としますが、必要に応じて、受講者間での意見交換をしたり、現地の視察を行ったり、視聴覚教材等を利用したりすることもあります。 なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>
到達目標	<p>① 図書館の専門的職員になるために必要な知識を身につける。 ② 図書館で行っているさまざまな取り組みの背景やその手法を理解する。</p>
授業内容と計画	<p>第1回 図書館現場での仕事の全体像を掴む 第2回 図書館に来館する利用者の心理やニーズを理解する 第3回 図書館で行われているサービスの多様な在り方を知る 第4回 図書館で行われているサービスと館内施設との関連を把握する 第5回 図書館利用者と職員とのコミュニケーションの望ましいあり方を考察する 第6回 図書館のイベント企画を検討する 第7回 図書館と関連施設（博物館・美術館・公民館等）を比較する 第8回 全体のまとめ</p> <p>講義に加え、グループワークや演習、ディスカッションなども取り入れます。</p>
履修者への要望・条件	<p>意見表明や質問など、授業への積極的・主体的な参加を通じて、受講生同士や教員との間で活発なコミュニケーションをとることを期待します。 図書館施設論（前半）と合わせて受講することを推奨します。</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>授業で次回の予告をします。それに基づいて指定した資料の熟読や課題の整理によって1週間のうち120分以上の予習を行い、授業に備えてください。 授業で渡すレジュメや自分が作成したノートを見返し、1週間のうち120分以上の復習を行い、理解を深めてください。</p>
教科書	指定しません。資料を配布します。
参考書	未来の図書館研究所編『図書館員の未来カリキュラム』（青弓社、2023年）
評価方法と基準	レポート（70%）、授業への取組みの能動性（30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①60%②41%とします。なお、レポートについては、全体的な傾向やポイント、注意点等を授業内で論評します。

図書館サービス特論（後半） (30-20 514)

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	1 単位	前期	講義

授業概要	<p>かつてに比べ、現在の国内では、個性豊かな図書館の事例を多く見ることができるようになってきています。本講では、時代とともに変化する図書館の姿を、そのあり方に強い影響を与えてきたレポート・報告書類を絡めて見ていきます。</p> <p>実際の具体的な事例を紹介しつつ、各種文書類との関連を踏まえ、時代背景や図書館ごとの社会変化への対応なども意識しつつ、今後の図書館のあり方を、受講者とともに考えていきます。</p> <p>講義形式での進行を基本としますが、必要に応じて視聴覚教材等を利用したりすることもあります。</p> <p>なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。)</p>
到達目標	<p>① 日本の公共図書館の発達の道筋と特徴を理解する</p> <p>② 時代ごとの社会環境の特徴と図書館との関連を把握する</p> <p>③ 今後の社会変化に合わせた図書館のあり方を受講者ごとにイメージする</p>
授業内容と計画	<p>第1回 ガイダンス：取り上げるレポート・報告書類の概要</p> <p>第2回 『中小都市における公共図書館の運営』の時代（貧しい時代の図書館）</p> <p>第3回 『市民の図書館』の時代（経済成長期の公共図書館の普及）</p> <p>第4回 『これからの図書館像』の時代①：概要と要点（変革のポイント）</p> <p>第5回 『これからの図書館像』の時代②：意義と展望（今後に開かれた可能性）</p> <p>第6回 『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』の意義（国の図書館政策として）</p> <p>第7回 今後の図書館のあり方を考える</p> <p>第8回 まとめ：社会環境や時代背景と図書館との関係</p>
履修者への要望・条件	特になし
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>毎回授業の時に次回の予告をします。それに基づいて指定した資料の熟読と課題の整理によって1週間のうち120分以上の予習を行い、授業に備えてください。</p> <p>授業で渡すレジュメや自分でつくったノートを読み返すことを含め、1週間のうち120分以上の復習を行い、授業の内容を再度イメージし理解を深めてください</p>
教科書	指定しません。毎回プリント（レジュメや参考資料等）を用意して配布します。
参考書	<p>『中小都市における公共図書館の運営』（日本図書館協会、1963年）</p> <p>『市民の図書館』（日本図書館協会、1970年）</p> <p>『これからの図書館像』（文部科学省、2006年）</p> <p>「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）</p> <p>アントネッラ・アンニョリ『知の広場（新装版）』（みすず書房、2017年）</p>
評価方法と基準	<p>評価方法と基準 レポート（70%）、授業への取組み（30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①40%②20%③40%とします。</p> <p>なお、レポートについては、全体的な傾向やポイント、注意点等を授業内で論評します。</p>

図書館情報資源特論（後半） (30-20 515)

非常勤講師:堀越 洋一郎				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	1単位	後期	講義

授業概要	<p>図書館資料のうち学術資料や専門資料に関する理解を深めると同時に学術コミュニケーションの仕組み、オープンアーカイブや機関リポジトリなどの取り組みについて理解する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。(学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく)。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術情報や専門資料の必要性を理解する。 2. 非図書館所蔵資料、特にネットワークを通じたデジタル情報資源の特性の理解を通して、情報の共有、情報の流通、コミュニケーションの手法の仕組みを理解する。 3. 情報資源に関する最近の動向を理解する。
授業内容と計画	<p>第1回 概説、専門図書館</p> <p>第2回 情報の記述形態など</p> <p>第3回 学術機関リポジトリ、図書館間相互貸借など</p> <p>第4回 灰色文献、J-STAGE、NDL デジタルコレクション</p> <p>第5回 MLA (博物館、図書館、文書館) 連携および美術図書館蔵書横断検索など</p> <p>第6回 現代の専門資料をめぐる最新の動き (オープンアーカイブ、機関レポジトリ、レポジトリ横断検索、ドキュメントデリバリー、ILL、著作権、クリエイティブコモンズ、電子書籍、情報流通など)</p> <p>第7回 現代の専門資料をめぐる最新の動き (レファレンス協同データベース、ジャパンサーチなど)</p> <p>第8回 まとめ</p>
履修者への要望・条件	<p>図書館だけでなく、博物館や美術館、文書館、アーカイブなどの各種情報資源の提供機関にも関心を寄せ、利用体験を持つこと。</p> <p>インターネット上のサービスなど情報提供サービスやネットワーク環境の動向も注視すること。</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>授業内で小課題を出題する場合がありますので、その際は必ず提出すること。</p> <p>前回の授業内容を基に各回 270 分以上復習時間を取り、次回の授業にあたること。</p>
教科書	<p>指定なし。</p> <p>適宜レジュメや参考資料を配布する。</p>
参考書	<p>三浦逸雄, 野末俊比古 編著『専門資料論 新訂版-JLA 図書館情報学テキストシリーズ II 8』(日本図書館協会、2010)</p>
評価方法と基準	<p>テスト (70%)、課題回答内容 (15%)、授業への取り組みの能動性 (15%) を考慮して評価する。</p> <p>授業内課題については、提出の次の授業にて全体解説等を行い、必要があれば個別に添削を行い返却する。</p>

図書・図書館史（前半） (30-20 516)

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	1~	1 単位	前期	講義

授業概要	<p>人間は自身の脳内記憶のほかに、外部媒体として様々なものに知識や情報を記録して、その伝達や保存を図ってきました。なかでも、紙の図書は、記録・伝達のための媒体として、歴史上重要な役割を果たしています。図書を集めることで発展してきた図書館は、知識の集積・活用のための装置として、社会の中で機能しています。</p> <p>本講では、外部記憶装置としての媒体（メディア）のあり方と、その活用の場としての図書館について、歴史的に俯瞰することで、現代の図書館を理解する一助とします。同時に、図書と図書館それぞれの歴史を踏まえ、将来の図書館を展望する視点を受講者各自が獲得することを目指します。</p> <p>講義形式での進行を基本としますが、必要に応じて視聴覚教材等を利用したりすることもあります。</p> <p>なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。（学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。）</p>
到達目標	<p>① 図書をはじめとする各種図書館情報資源の歴史の概略を理解する。</p> <p>② 媒体の変化と図書館のあり方の関係を掴む。</p> <p>③ 図書館の発展のプロセスを踏まえ、社会における図書館の意義を知る。</p>
授業内容と計画	<p>第1回 ガイダンス：紙以前の記録メディア</p> <p>第2回 紙の発明と印刷の歴史</p> <p>第3回 メディアの多様化と新しいメディアの出現</p> <p>第4回 図書館の歴史1（世界編①）：図書館の源流と発展</p> <p>第5回 図書館の歴史2（世界編②）：パブリックライブラリーの成立</p> <p>第6回 図書館の歴史3（日本編①）：江戸期までの文庫・西洋の図書館概念の導入</p> <p>第7回 図書館の歴史4（日本編②）：戦後の市民社会と図書館</p> <p>第8回 まとめ：図書館史を踏まえ今後の図書館を展望する</p>
履修者への要望・条件	特になし
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>毎回授業時に次回の予告をします。それに基づいて指定した資料の熟読や課題の整理によって1週間のうち120分以上の予習を行い、授業に備えてください。授業で渡すレジュメや自分でつくったノートを読み返すことを含め、1週間のうち120分以上の復習を行い、授業の内容を再度イメージし理解を深めてください。</p>
教科書	小黒浩司編著『図書・図書館史』（日本図書館協会、2013年）
参考書	高山正也著『図書館の日本文化史』（筑摩書房、2022年）
評価方法と基準	<p>レポート（70%）、授業への取り組み（30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①30%②30%③40%とします。なお、レポートについては、全体的な傾向やポイント、注意点等を授業内で論評します。</p>

図書館施設論（前半） （30-20 517）

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	1 単位	後期	講義

<p>授業概要</p>	<p>図書館は「図書館（やかた）」と表現されることから、単に本を収納する倉庫のようなイメージを私たちは持ちがちです。しかし、時代とともに図書館の役割や機能も変化し、その空間で展開する人々の学びや出会い、発見、創造なども、多様なものとなっています。本講では、こうした切り口から、現代的な図書館建築・施設あり方を、代表的・特徴的な事例を通じて、学んでいきます。</p> <p>この科目では、公益社団法人日本図書館協会の図書館施設委員会が長年培ってきた図書館建築に対するノウハウに触れつつ、よりよい図書館施設をつくるための視点を受講生に知ってもらいます。</p> <p>講義形式での進行を軸としますが、必要に応じて、受講者間での意見交換をしたり、現地の視察を行ったり、視聴覚教材等を利用したりすることもあります。</p> <p>なお、講義は公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。（学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。）</p>
<p>到達目標</p>	<p>① 図書館施設を計画する段階で配慮すべき点を説明できる。 ② 図書館で行われる活動と空間の関係の重要性を指摘できる。 ③ 多様な図書館の実態について、共通点や相違点を見分けることができる。</p>
<p>授業内容と計画</p>	<p>第1回 事例で見る図書館建築①：図書館づくりとの関係を中心に 第2回 図書館利用と空間・施設の関係 第3回 建築計画類の事例研究 第4回 図書館施設・設備の充実度 第5回 施設の維持管理と危機管理 第6回 事例で見る図書館建築②：特徴ある館を中心に 第7回 事例で見る図書館建築③：利用者視点での施設・空間の理想的なあり方 第8回 全体のまとめ：「第3の場」としての図書館空間</p> <p>講義を軸に、国内外の事例を数多く取りあげ、演習やディスカッションも含めつつ、具体的な建築・施設を対象に（楽しみながら）評価を行います。現地視察・見学も計画します。</p>
<p>履修者への要望・条件</p>	<p>意見発表や質問など、授業への積極的な参加を通じて、受講生や教員と活発なコミュニケーションをとることを期待します。</p> <p>図書館基礎特論（前半）と合わせて受講することを推奨します。</p>
<p>履修にあたっての準備(予習・復習)</p>	<p>毎回授業の時に次回の予告をします。それに基づいて資料の熟読や課題の整理によって1週間のうち120分以上の予習を行い、授業に備えてください。</p> <p>授業で渡すレジュメや自分でつくったノート・テキスト等の再読を含め、1週間のうち120分以上の復習を行い、授業の内容を再度イメージし理解を深めてください。</p>
<p>教科書</p>	<p>指定なし。毎回資料を配布します。</p>
<p>参考書</p>	<p>中井孝幸ほか著 『図書館施設論』（日本図書館協会、2020）</p> <p>なお、国内図書館の計画関連文書や図面などを毎回紹介します。</p>
<p>評価方法と基準</p>	<p>レポート（70%）、授業への取組み（30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記の到達目標の各項目について①30%②40%③30%とします。なお、レポートについては、全体の出来ばえを授業で論評します。</p>

図書館実習 (30-20 518)

教授: 叶多 泰彦				
年度	年次	単位	開講期	形態
2026	2~	2 単位	通年	実習

授業概要	<p>図書館現場では、利用者からは見えないところでも、様々な業務が行われています。そのため、図書館司書の仕事を理解するうえで、現場の実体験はとても貴重なものとなります。図書館実習は、単なる講義では体得できない図書館業務全般を、現場の図書館員の指導のもとに学習する科目です。実習は夏休み期間に約2週間（実質12日間）行ないます。実習の準備・指導等は、公共図書館での実務経験をもとにした内容となります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針中の司書に関する科目に位置づけられている。（学修目標中の主として知識、技能の育成に取り組んでいく。）</p>
到達目標	<p>①公共図書館のサービスや業務の実体験に基づき、図書館職員としての心構えを説明できる。</p> <p>②利用者や図書館職員とのコミュニケーションに関して、図書館における人間関係の構築方法や、必要となるマナーなどの基礎的な要点を指摘できる。</p> <p>③実習で培った計画的な行動や、組織の一員としての身のこなしを、実際の就活やアルバイト、サークル活動などに応用して活かすことができる。</p>
授業内容と計画	<p>4月 図書館実務研修のガイダンス（実習の意義・目的・実習希望館の聴取） 5月～6月 実習館の選定・調整 7月 図書館実務研修のガイダンス（事前指導・事前挨拶など） 8月～9月 図書館実務研修 2週間（実質12日間） ※内容は実習受け入れ館の計画に沿い、図書館業務全般を体験するもの 10月～12月 図書館実修の事後指導（実習報告会：司書科目でのプレゼン）</p> <p>実習期間は、実習受け入れ館の指導計画に従ってください。 実習終了後は、実習記録を必ず提出してください。</p>
履修者への要望・条件	<p>本講は、図書館司書課程履修者を対象にした科目です。受講に際しては事前面接の上、一年次成績優秀者のみを選考します。</p>
履修にあたっての準備(予習・復習)	<p>実習前に受け入れ図書館を訪れ、実習にあたっての注意事項等の指示を受けてください。また、実習中は、毎日実習記録を書き、担当職員の確認とアドバイスをもらってください。実習で学んだ内容をパワーポイントにまとめ、司書課程の授業で報告のプレゼンテーションをしてもらう予定です。</p> <p>実習プログラムに従い、次の日に行くことを120分以上予習し、かつ当日に行ったことを120分以上復習し、理解を深めるようにしてください。</p>
教科書	<p>指定なし。</p>
参考書	<p>川原亜希世ほか著 『図書館実習 Q&A』（日本図書館協会、2013）</p> <p>なお、実習館より当該図書館の年次報告書などを事前に読むよう指示がある場合は、その資料は必読とします。WEB ページで得られる情報（市政概要・統計年報・図書館年次報告書等）を中心に、図書館設置主体としての自治体の特徴や、実習館の概要などを事前に把握するよう努めてください。</p>
評価方法と基準	<p>実習館での実績調査報告書（80%）、及び実習記録を使った発表（20%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。配点は、上記到達目標の各項目について①40%②30%③30%とします。</p>